

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100768		
法人名	有限会社 ゆうしん		
事業所名	グループホーム ゆうしん三丁目		
所在地	熊本市西区野中3丁目7-27		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果市町村受理日	平成28年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年12月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・基本理念を理解し、ご利用者様のペースで、また、ご利用者様を中心としたケアの取り組みを行っています。法人での研修会や勉強会へ参加する事で個人のスキルアップに努め、スタッフミーティングやカンファレンスを実施し、意見の交換を行い、職員全員で課題解決に取り組み、ケアの質の向上に努めています。  
 ・地域の一員として、自治会や校区での行事等には、なるべく参加し、また、ホームでの行事(夏祭り・敬老会・クリスマス会等)を開催する事で、ご家族様や地域の方々との交流を深め、ご利用者様にも喜んで頂ける様取り組んでいます。また、季節感を感じて頂ける様、季節に合った外出行事を計画し実施しています。  
 ・今年は、ホーム内に花壇と畑を作り、ご利用者様と一緒に植え、収穫する事で自然に触れる機会を設け、季節感を感じ喜んで頂きました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年、高齢化(最高齢100歳)、重度化傾向の中に職員の寄り添いのケアや発語や意思疎通困難な状況もある中で、法人との連携(リハビリの指導等)や生活の中でのオムツ外しが立位にまでつながる等職員のアきらめないケアやプランニングの成果を垣間見るホームである。また、外部評価や実施指導等の課題に向けた姿勢は、地域生活の拡充への努力とともにフェースシートの見直し個別支援(本人の望むレクリエーションや外出を可視化としてプランに反映)として生かされた他、夏祭りの開催や食への関りとして畑を作り、見る・食べる喜び、食卓での会話へとつないだこと等に表れている。運営推進会議の相乗効果も確認され、透明性のある運営体制であることや地域の中のホームとして確固たる基盤は、地域とともに作り上げている。管理者を中心として風通しの良い環境が課題をクリアできる要素でもあり、“介護に慣れは無い”と日夜現場が研修としてスキルアップに努める等志向を高めたホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎日の朝礼の時に法人の綱領と、グループホームの基本理念をスタッフ全員で復唱して実践している。</p>	<p>綱領や基本理念の3項目を具現化し、掲示による啓発及び朝礼の唱和により意識付けとしている。また、“笑顔での挨拶や標準語での言葉使い”を目標として掲げ、出勤したら全利用者一人ひとりへの挨拶からケアに当たることとしている。管理者は朝礼やミーティング時に理念や目標について訓示している。特に標準語での会話は入居者への尊敬の念、職員同士は感情的に陥らない要素でもあると注意喚起している。理念の一つ“安全と安心…”に向け、些細なひやりはっつでも全職員で検証する姿勢に理念がケア規範としていたことが確認された。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>散歩や近所の店舗に買い物に出かけたり、地域の行事やイベントに参加している。又、ホームの行事に地域の方をご案内して、交流を図っている。</p>	<p>地域の中での生活拡充に努力した一年であったことが地域行事や自治会活動(総会や清掃活動等)への参加、及び今年度初めて近隣住民も招いた夏祭りを開催したことに表れ、消防訓練も地域に声かけしている。運営推進会議を通して、自治会長等との協力体制や友好な関係が築かれていることも、空き地対策(雑草等の環境問題)に表れている。また、地域の文化祭への作品展示と見学は入居者の自信に繋がっている。</p>	<p>人通りの少ない場所ではあるが、散歩時の挨拶から庭先のバラ見学にかけたケースもあり、今後も近隣住民が気軽に訪問できるホームとなることに期待したい。地域交流室の有効活用も運営推進会議の中で検討されることも一案である。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議や行事を通して、地域の方たちと話し合いを行い、認知所の理解を深めていただけるように情報交換を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用の日頃の様子や、行事や事故防止等の取り組みを報告して、地域の方やご家族と意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	定例化した運営推進会議は、ホームの現状や写真による活動報告の他、地域の行事や情報リサーチの場、防災訓練を見学された消防団長からの評価等この会議の意義を明確にした双方向の意見交換が行われている。また、外部評価及び実地指導での課題を検討する機会として生かされている。参加委員からの情報のみならず意見や提案も多く、透明性のある運営体制であることもヒヤリハット・事故等もオープンにしながら全員で検討し、サービスに反映させる姿勢に表出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回訪問されている介護相談員の方と情報を共有しながら、関係協力を築いている。又、ささえりあに事例の相談や協力の依頼を行い、協力関係を築いている。	運営推進会議へ地域包括支援センターからの参加が、気軽に話せる・相談できる関係が築かれ、年2回ささえりあ主催の会議(地域の地域密着型事業所合同)で地域の中にあるもの・無いものを話し合っている。また、実地指導を改善の機会としたり、区役所担当部署に入居者の経済面での相談をしたり、介護認定調査時の意見交換及び介護相談員制度を活用しケアサービスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修や、日々のケアを行う中で学んだ事を知識として、拘束をしないケアにスタッフ全員で取り組んでいる。	研修や報道による話し合いを職員の意識改革(普通に行っていたこと、言葉一つ一つも拘束に繋げるものとして再確認)に繋げている。無断外出という事例により家族に説明しセンサーマットや人感チャイムを使用しているが、職員が意見を出し合い花を植えたプランターの設置等拘束しない対応に努めている。	職員は所在確認の徹底や精神的な部分まで申し送る等外出傾向への対策が講じられている。今後も観察力・気づきを生かす等、職員の力をフルに発揮していただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修や、ミーティング、カンファレンス等学ぶ機会を設けて、学んだ事を知識としてスタッフ同士で話し合い、確認し合っ、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中には、成年後見人制度を活用されている方もいる為、分からない事は、直接尋ね聞いている。又、研修等を通し、制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には、個別に説明を行い、不安や疑問等残らない様、十分な話し合いを行っている。又、改定時には、お知らせし説明を行い理解、納得を頂き、署名、捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族様にも参加して頂き意見を外部の方にも聞いてもらう機会を設けている。また、面会に来られた際には、日々の状態や状況を報告し、ご家族様からの要望を尋ねよう努力を行っている。	家族の訪問時に状況報告とともに意見や要望を聞き取りしたり、運営推進会議を問題提起の場としている。職員の離職も少なく、家族との良好な関係が築かれており、出された要望は苦情相談簿に残し、家族と本社側で話し合いこととしている。家族との情報交換対策として居室にノートを設置する等個別対応も行っている。	家族が食事介助に訪問されている様子も垣間見られた。ホーム独自でアンケートを行うことも一考いただきたい。また、家族が参加される行事の中で運営推進会議の内容の発信や、家族会の発足に向け尽力いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフミーティングを開催しており、意見を出している。上司の出席もある。また、定期的に個別面談を行い、一人一人が意見を出す事ができる機会を設けている。	職員ミーティングにより、休憩時間の変更(同市内グループホームが方向性を共有)やマニュアル等合議により確立させている。管理者は日々ケアに入り、要望等を収集する他、個別の相談等に応じるストレス対策に努めている。法人サイドもメンタルケアに心理カウンセラーを採用し個人面談により意見や要望を聞き取りする等、意見を出しやすい環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談を行う事で、職員一人一人の要望や意見や目標などを把握し、職場環境のい整備、向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修の計画があり、実施している。また、それぞれの職員にあった外部研修の案内もあり、研修を受けている。職員も積極的に研修へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック会議や同法人グループホーム会議等を通じて、情報交換や交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの環境に馴染んで頂く為に、ご本人の思いや希望、身体機能等を考慮して、コミュニケーションを密に取り、信頼関係を築く事ができるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がグループホームに求められているサービスや不安を、コミュニケーションを密に取ることでより多く聞きだし、ご本人の現状、能力に応じたサービスを提案、提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの情報を基に、要望や問題点を把握して支援を検討し、必要があれば他のサービスが利用できるように説明し、対応できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とスタッフは、生活を共にする者同士としての意識を持って、ご本人が望む暮らしができるように支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用の現状の情報をご家族に伝え情報を共有して、話し合いを行う事で常に連携を図り、ご利用者を共に支えて行く関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の多くの情報を得る事で、ご家族や親戚、ご友人等の馴染みの方や、馴染みの場所との関係が途切れないように支援している。	入居時の情報とともに、今年はフェースシートを作り直し新たな関わりを把握している。重度化傾向の中で、季節毎の行事やこれまで出かけていた神社参拝、盆にはホームで作った野菜をお供えとする等これまで行ってきた慣習を継続されている。家族や知人の訪問や誕生日の家族との外食、好きな外食を支援される親族、1日・15日には櫛をあげた神棚に手を合わせる入居者等これまでの人的・物的な関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が、誕生会や季節の行事、体操や散歩等のレクリエーション、洗濯物たたみや食事の準備等の家事を通して、一緒に行う事の楽しさを感じて頂けるような支援を工夫して取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からの要望があれば、相談や支援を行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人の希望、意向を聴き、それに沿った支援を行う事ができるように努めている。ご本人の意思確認が困難な場合は、ご家族と話し合い、思いや意向を検討して支援している。	入居者を認知症としてばかりではなく、多角的に見て全てを受け止めている。意思疎通・発語はあるが内容が不明・目が不自由と様々なケースに発せられ言葉や表情をサインとして捉え、家族と話し合いながら思いに応えるよう努力している。職員の日々のかかわりの深さが、首の動きでイエス・ノーを引き出したり、声の高低で把握する様子に表れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、その他の関係者からできるだけ多くの情報を収集している。情報提供を受けたら記録に残し、フェイスシートに記載してスタッフ間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察、カンファレンス、経過記録を通して情報の共有を行い、その人らしい暮らしができるように、現状の心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時等に状態の報告を行い、話し合いの場を設けている。スタッフ間ではミーティングやカンファレンスを行い意見を交換して、プランに反映できるように取り組んでいる。	毎日のショートカンファレンス及び毎月のケアカンファレンスにより職員の気づきや観察の結果を話し合っている。半年毎にはアセスメントも取り直し、家族や職員が分かるような可視化と、人として尊厳ある生活を続けてほしいとプランに反映させている。家族と職員とケアマネジャーにより話し合い、新たなプランを作成しており、現状に即したプランであり、生活の中でのオムツ外しが立位へとつながる等副次的な成果も見られ、プランニングの確かさが確認された。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容、気づき等は確実に個別の記録に残している。注意事項やアドバイス等の共有すべき内容はカンファレンスや申し送りノートを活用して、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望による外出や、地域のイベント等にはできる限り参加ができるようにしている。又、医療機関への受診や、急変時の対応もスタッフが対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度よりホームで夏祭りを実施し、地域の方を招き交流を行った。又、公民館等で行われる町内の行事に積極的に参加して、暮らしを楽しむ事ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の利用により、医師、看護師、スタッフが連携して適切な診療が行われるように支援している。入所前からのかかりつけ医を利用される場合も情報の共有を行い、受診の支援を行っている。	緊急時対応などの面から殆どの方がホーム近くにある協力医療機関による2週間ごとの訪問診療や、これまでのかかりつけ医を家族対応で継続している。また、訪問看護や歯科について家族に説明し支援している。高齢の入居者も多く、水分補給や衣類の調整には特に注意を払い、少しでも異常があればかかりつけ医や訪問看護師に連絡し、重度化しないよう早めに対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の利用により、より良いケアが提供できるように常に連携して、情報の共有を行っている。ご利用者の状態を把握して看護職と協働し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活状況等の情報を提供して、入院までの経緯を報告している。退院前には医療機関より情報を得て、元の生活に戻る事ができるように連携を図り、支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、事前確認書に記載して頂き、同意を得ている。実際に重度化された場合は、医師、看護師、スタッフ、ご家族との連携を図り、ご本人の状態を観ながらチームケアに取り組んでいる。	重度化した場合の取り組みや事前意思確認書を作成している。家族との話し合いはまだ持たれていないが、今の気持ちを確認し、今後必要に応じて話し合いを進めることとしている。ホームでは看取り支援は実施しておらず、出来るまで対応しており、継続した医療支援が必要になった時点で医療機関へ転院された事例がある。	重度や高齢化していく現状で、急変などいつどのようなことがあるか職員は不安もあると思われる。今後もメンタル面にも配慮した研修会の開催が必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを基に、定期的に法人やホームで研修を行い、実際の動きをスタッフ間でシュミレーションして、緊急時に全員が対応できるように取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中、夜間を想定した消防避難訓練をご利用者も交えて行っている。地域の方も参加して評価を行って頂き、協力体制を築いている。	今年度は5月に夜間想定、10月に日中想定で消防避難訓練が実施されている。運営推進会議メンバーである自治会長よりハザードマップ作成の報告や、大雨の際ホーム前の水路の氾濫について意見を出されている。また、同メンバーの地元消防団代表者からは、訓練参加の感想として拡声器があれば近隣者の応援に繋がること出され、課題として検討することが返答されている。	ホームでは毎日自主点検項目による安全チェックや台風接近時は深夜より2名宿直体制や停電を予測し保存の食料確認や新たな食材購入など、自然災害への対応も確認された。今後も地域との協力体制を継続しながら、入居者の安全管理に尽力される事を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人がその時の状況に応じてご利用者の人格を尊重した適切な声掛け、対応を行っている。又、ミーティングやカンファレンス等で、個人の誇りやプライバシーの確保ができていたか振り返り、話し合いを行っている。	管理者は入居者に対して「わかっていない！聞こえていない！」など決して考えず、尊厳を持って接することや、慣れあいの言葉などについて指導している。目標に『笑顔の挨拶・言葉使い』を掲げ、呼称は苗字にさん付けとすることや、方言を使っても末語は丁寧な言葉で結ぶなどを周知徹底し、可能な限り同姓介助で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が思っている事を伝える事ができるように、声掛けの工夫をしている。意思の疎通が困難になっても、自己決定ができるように質問をイエス、ノーで選択できるようにする等配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握して尊重し、身体に危険が及ぶ事以外はご本人の意思で思うように過ごす事ができるように、時間と場所の提供を心がけて、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好まれる服を選んで頂いたり、服装の乱れがある時はさりげなく直す等配慮している。ご本人やご家族の希望によるヘアークットや、爪切り髭剃りを行い、身だしなみには常に気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の説明を行ったり、季節の食材を見せたり、実際に触って頂くなど、食事に関わりと楽しみが持てるように支援している。できるご利用者には食材の下ごしらえや、食器洗い等一緒に行っている。	法人で作成された献立にそって食材購入や調理をホーム職員で担当している。(献立名では調理方法がわからない意見もあがっており、法人で検討中である)菜園での草取りや収穫(ピーマン・なす・ミニトマトなど)は入居者の食への関わりを後押ししている。収穫物は食材はもとより、夏野菜は特にお盆のお供えに活用するなど、日本ならではの慣習を大切にしたい取り組みである。また、誕生会では『本日の主役』と書かれたタスキを準備したり、夏祭りではそばの会ボランティアによる手打ちそばの試食も行われている。職員は休憩時間の確保から、支援後に食事休憩を兼ね食事を摂っている。	デザートによってはスプーンの準備も必要と思われる。また、昼食をゆっくり楽しんでもらうために、洗い物の時間をずらすことや、食事時のテレビの使用を検討されることを期待したい。合わせて職員も入居者と同じ食事を輪番で取ることで、味や量、思いを共有できると思われる。可能な範囲での取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行い増減をチェックして、食材や食事量、食事の形態の工夫をしている。水分摂取量が少ない方には、声掛けや、好みの物を提供する等配慮して、十分な水分の確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に声を掛けて口腔ケアを行っている。介助が必要なご利用者には、その方に合った歯間ブラシやスポンジ等の補助具を利用している。又、必要な方は訪問歯科を利用して頂き、口腔内の適切なケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のご利用者の排泄の状況を把握して、尿意の訴えができないご利用者には表情や動きから早目に察知して誘導している。オムツ使用に関してはご家族に状況を説明し、状態に合った物を選択し自立に向けた支援を行っている。	声かけや誘導時プライバシーに配慮し、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられるが、毎朝洗浄を徹底し昼間は日光干しを兼ね本体ごと外で管理している。夜間の頻尿や適切な排泄用品など個々に応じた排泄について職員間で検討していることが記録から確認された。立位ができることでおむつ外しにも繋がった事例等職員のチームワークが入居者の自立や尊厳もサポートしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ご利用者に応じた水分、食事摂取量を把握し、適量確保して便秘の予防に努めている。又、ホーム内外を散歩したり、腹部マッサージを行う事で排便を促したりと工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の体調や、気分を伺って、その日の入浴を行っている。入浴の拒否がある時は、時間を置いたり、他のスタッフの応援を得て無理なく、気分良く入浴されるように心がけている。	職員の休憩時間確保の面から、現在は週2回の支援を基本とし(希望される方は3回もあり)、午前・午後で湯の入れ替えを行っている。また、身体状況から2名での介助などゆっくり湯船に浸かってもらえるようにしている。安全面からも機械浴を検討している。	介護度に関係があるが、入居者自身で着替えなどを準備される方もおられ、入浴を楽しみにされていることが窺える。今後は本人や家族にも入浴の支援回数について要望を確認されることも必要と思われる。また、継続して季節湯(菖蒲や柚子など)の取り組みにも期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の室温調整に気を配り、日中に休息を希望されたり、眠気や疲労感が強いご利用者は、居室でゆっくりと休む事ができるように支援している。夜間も就寝時間は決まっていない為、自分のペースで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が処方薬の内容について把握できるよう、薬剤師、看護師の協力を得て話し合いを行っている。服薬支援は2人のスタッフで行い、状態の変化がある時は申し送りを徹底して、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者本人やご家族に生活歴を聞いて、一人一人に合った楽しみや、役割ができるように支援している。ご利用者の得意な事や、好きな事をスタッフに教えたり、話をすることで気分転換になるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や気分を把握して、近所の散歩に出かけたり、季節感を味わって頂けるような場所へのドライブを行う等の支援を行っている。地域の行事にも気軽に参加できるよう取り組んでいる。	昨年の外部評価後の目標に地域への外出をあげ、家族へも電話や面会時に同行を働きかけなが支援している。初詣では入居者に歩く負担のない神社を選択したり、気候の良い時期は風にあたるだけでも楽しんでもらいたいと、花(桜・コスモス)やこいのぼり見学には全入居者での外出が行われている。また、近隣の散歩や買い物など個別支援や家族と外食に出られる方もおられる。	外出の際は家族へも働きかけを行っているが、これまでのところ参加協力には至っていないようである。入居者も家族の参加によって更に楽しみな外出に繋がっていくと思われ、引き続き参加を働きかけていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができないご利用者が多い為、必要な時はスタッフが預かっているお金から支払を行っている。おやつや購入や、外出時の飲み物の購入等はできる方には行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したいと希望されるご利用者には、呼び出しや取次などの支援を行い、直接話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く開放感のあるフロアは、夏場は直射日光が当たらないように、冬場は日差しが心地良いようにブラインドで調整している。又、季節に応じた壁飾りや、花を飾るなどして、心地よい空間作りに心がけている。	開放感のあるリビングホールには、両ユニットが工夫を凝らし季節の飾りつけや日常生活の写真が掲示されている。また、日々の掃除と空気清浄加湿器(秋口から春先まで使用)など、衛生面からも居心地のよい空間に努めている。玄関や浴室の戸は音を和らげるためクッション材を付けたり、洗面台のつまりは臭気にも繋がることから小まめな掃除の徹底を共有していることが記録物からも確認された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで一人でゆっくり過ごしたり、気の合う方とおしゃべりやテレビを観て楽しめるように、状態に応じて声掛け、誘導を行っている。カウンター席では、スタッフと会話が楽しめるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や、ご本人が大切にしていた物を居室に置き、安心して暮らせる空間作りを行っている。テレビは見なくなってもご自宅の部屋の再現としてご家族と話し合い、そのまま置いている。	自宅の部屋として過ごせるように、寝具や小物など家族の協力によって持ち込みが行われている。クローゼットへの収納により、車椅子利用者も室内をゆとりをもって移動できている。また、洗面台も設けられており、自室でゆっくり洗面や身だしなみを確認できている。職員は日々掃除や換気に努めているが、特に西向きの部屋は午後から室温が上がるため、新聞を開いたり、昼寝をされる方には十分配慮している。	テレビを視聴することがなくなっても自宅の部屋の再現とするなど、入居者の安定した生活を支援している。今後も居室作りに家族も一緒に関わってもらえるような働きかけを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には分かりやすく番地、部屋番号を入れた表札を作り、ご自分の居室が認識できるようにしている。全フロア内バリアフリーと手摺りを設置し、個人の移動状況に合わせた環境を提供している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100768		
法人名	有限会社 ゆうしん		
事業所名	グループホーム ゆうしん三丁目		
所在地	熊本市西区野中3丁目7-27		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果市町村受理日	平成28年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・基本理念を理解して、ご利用者様のペースで、ご利用者様を中心としたケアに取り組んでいます。法人の研修会や勉強会へ参加して、個人のスキルアップに努め、スタッフミーティングやカンファレンスを実施して意見交換を行い、全員で課題解決に取り組み、ケアの質の向上に努めています。</p> <p>・地域の一員として、自治会や校区の行事になるべく参加して、ご利用者様に喜んで頂けるようにしています。又、外に出る機会を増やし、季節の花を見に行ったり、近隣の催し物に参加できるように計画を立てて取り組んでいます。</p> <p>・ホーム内に畑や花壇を作り、自然に触れる機会を設けています。今年初めて茄子、ピーマン、ゴーヤ等の野菜の収穫を行い、ご利用者様に喜んで頂きました。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年12月7日

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で綱領と基本理念をスタッフ全員で復唱して、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭や文化祭、新年会等の地域の行事にご利用者と一緒に参加している。ホームの夏祭りや敬老会には地域の方を招待して交流を行っている。自治会の会議や地域の清掃活動にも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、ホームの行事に参加して頂いたり、地域の催しにスタッフが参加して、認知症の理解を深めて頂けるように日々の生活の様子や、ホームの取り組み等の情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状や、ケアの取り組みを報告して、参加者の方々からの意見を頂き話し合う事で、サービスの向上に活かしている。又、地域の情報を得て、行事や事故、防災等の取り組みにも活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れがあり、情報を共有して協力関係を築いている。ささえりあや区役所への相談も積極的に行い、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人や外部の研修に参加したり、研修後は報告を行い身体拘束についての理解を深めている。スタッフ間では常に拘束になっていないかを考えながらケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、ニュース等の事例を検討して話し合う事で、虐待への理解を深めている。スタッフ間ではケアの内容を確認して、常に虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を活用されているご利用者もおられる為、制度について質問をしたり、法人の研修会で学ぶ機会を設ける事で理解を深める事ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容について詳しくご家族に説明して、ご理解頂いてから同意を得ている。契約内容や制度の変更等がある時は、都度十分に説明を行って、納得して頂けるようにいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族にも参加して頂き、意見や要望を出して、話し合う機会を設けている。又、相談や意見を出しやすい環境、体制づくりに努め、法人全体の問題として話し合い、運営に反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフミーティングを行い、上司の出席もあり、意見や要望、提案を出し合い運営に反映できるように取り組んでいる。又、法人の3グループホームと上司の話し合いを開催し、意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司との定期的な面談により、スタッフそれぞれの悩みや要望を聞く機会が設けてある。又、総務より毎年労働条件の説明もあり、職場環境、条件の整備ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的な研修会や勉強会があり、スタッフのケアの質の向上ができています。新卒者の教育体制の強化や、資格を取る為の勉強会の開催等法人全体で取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック会や、各研修会に参加する事で、他の施設と交流する機会を設けている。又、法人内の各部署との定期的な話し合いにより、問題解決やケアの質の向上に繋がっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者やご家族からの情報を集めたり、生活の様子を観察して、まずはご本人の事を知る事で、信頼関係を築く事ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を聞きながら、密にコミュニケーションを取り、ホームでできる事、できない事を伝え、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの要望を聞き、必要があれば他のサービスの検討も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご利用者と一緒にできる事を行い、してもらっているという感覚がないようなさりげない声掛けや介助を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは常にご利用者の現状を報告して情報を共有している。必要に応じてご家族の協力を得て連携し、ご利用者を支える事ができるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知り合いの方の面会がある時は、居室やフロアでゆっくりと過ごす事ができるように環境を整えている。ご家族との外出も自由にできるようにして、関係継続の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しやすい関係にあるご利用者同士が一緒に過ごす事ができるように、席の調整をしたり、日常の生活の中で支え合い、家事等協力して行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の要望があれば、できる範囲内で相談に応じられるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の希望、意向をお聞きしたり、入居以前の情報を集めて、できるだけ気持ちに添えるように努めている。意思の疎通が困難な方もその方の思いを把握できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中から、又は入居以前の情報や面会時にご家族から趣味や好まれることを詳しく伺って、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を活用して、1日の中でご本人ができる事、支援が必要な事を見極めて、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間でご利用者の情報を共有し、ご家族からの要望や、医療面での注意点等を取り入れながら話し合いを行い、現状に即した介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別記録に記入して情報を共有し、状態に変化があった場合は介護計画の見直しを行い、実践へ反映している。定期的カンファレンスを行い、課題の評価、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な医療機関への受診や、急変時の対応等、柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区や町内の自治会の社会資源を、回覧板や運営推進会議の情報により把握して、行事や催し物に参加できるように計画して、ご利用者暮らしを楽しんで頂けるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前よりのかかりつけ医がある方は継続して受診できるように、医療機関と連携を図っている。ホームでの訪問診療をご希望される方には詳しい説明を行い、同意を得て適切な診療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の利用により、看護師と常にご利用者の情報を共有しながら、適切な看護や、受診が受けられるように指示や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、入院先へ情報の提供を行い、連携を図っている。経過を定期的に観に行ったり、医療機関からの情報を得て、状態に変化があれば退院後の生活に備えられるように、密に関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度より、重度化した場合の取り組みに加えて、事前意思確認書を作成して、終末期の在り方について話し合う機会を設けている。又、入居や退院時の受入れの条件を明確に打ち出して、事業所にできる事を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や事業所で定期的研修を行い、全員が緊急時の対応が実践できるようにしている。又、緊急時対応マニュアルや、救急隊への連絡シートを作成して、自己発生時への備えを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は定期的に行い、スタッフ全員ができるようにしている。運営推進会議で話し合い、他の災害発生時にも、地域の自治会や消防団の協力を得られるような体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が常にプライバシーや、一人ひとりの人格の尊重について考えて行動できるように努めている。又、研修会で学んだ事や、カンファレンスやミーティングで話し合った事を活かして、日々のケアに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者を中心に考え、コミュニケーションを取り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の意向を尊重して、希望に沿って自立した生活ができるような支援を心がけている。集団生活の中でも、個人のペースで時間を限定する事なく暮らす事ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望や好みを聞いて、身だしなみを整えるようにしている。外出や行事の時は化粧やマニキュア等のおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状態、嗜好を十分配慮して食事の提供ができるようにしている。準備や方付けもご利用者と一緒に行えるようにし、できない方も食材を見る、触れる等で食に関わりを持って楽しんで頂けるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食べやすいように大きさや、硬さを工夫している。水分の確保が難しいご利用者には好みの物を提供したり、声掛けや介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態に合わせて歯磨き、うがい、スポンジの使用等を行って、毎食後声掛け、介助をしている。義歯の方は洗浄、管理を行い、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄のリズムを把握して、ご本人の表情や動きから排泄のタイミングを見極めて、声掛け誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜の調理の工夫や、好みの水分の提供により、便秘の予防に取り組んでいる。又、ホーム内外の散歩や体操等の軽い運動を促したり、腹部のマッサージを行いご利用者の状態に応じた予防と対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者が気持ち良く入浴できるように心がけている。拒否がある時は無理をせず、声掛けの工夫や、時間を置いたりスタッフが交代する等の配慮を行い、入りたい時に入る事ができるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の状態を把握して、体調が優れない時や、ご本人が希望される時は自由に休息できるようにしている。寝具や室温の調整、カーテンを閉める等配慮して、安眠や休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者一人ひとりの薬についてスタッフ全員が把握し、理解した上で、服薬の支援を行っている。薬の変更や増量、減量がある場合は状態の観察、申し送りを徹底して行い、状態の変化を見逃さないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者やご家族から話を聞いたり、入居前の情報を集めて、好きな事や普段良くされていた事を見つけ、日々の役割や、レクリエーションに繋げて、ご本人の生活意欲を引き出す事ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の楽しみや、気分転換の為、積極的に外出ができるよう取り組んでいる。又、近所に咲いている季節の花を見たり、地域の行事や催し物に参加できるように年間の計画を立てて、ご家族や地域の協力を得ながら、外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かっているお金はスタッフが管理しているが、ご利用者より希望があれば、一緒に買い物に出かけて、支払をして頂いている。おやつや飲み物、衣類等を購入され、お金を支払う為の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者より希望があれば、ホームから電話ができるように支援を行っている。誕生日等のプレゼント等が送ってきたら、ご本人からお礼の電話を行う事ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は毎日掃除を行い、快適な環境の整備を行っている。又、ドアには音を和らげるようにクッション材を付けたり、外の光はロールカーテンで調整している。季節に応じた壁飾りを作ったり、花を飾ったりと、居心地良く過ごせるような居場所作りに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、テレビを観たりと自由に過ごせる空間を作ったり、テーブル席でご利用者同士が同じ作業や、レクリエーションができるよう、その時、その方に応じた居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具や、お気に入りの物を居室に奥事で、居心地良く過ごせるような工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の歩行の安全を考慮して、ホーム内はバリアフリーになっており、手すりの整備もできている。居室前には、部屋番号や名前を書いてご自分の部屋を分かりやすく表示して、自立した生活が送れるように工夫をしている。		